

千葉県 の

# 流域下水道

2018

○印旛沼      ○手賀沼      ○江戸川左岸

千葉県県土整備部都市整備局下水道課

# 千葉県流域下水道

## 流域下水道の概要

流域下水道名	印旛沼流域下水道	手賀沼流域下水道	江戸川左岸流域下水道	
関係都市	<b>12市1町</b> 千葉市、成田市、佐倉市、船橋市、八千代市、鎌ヶ谷市、習志野市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町	<b>7市</b> 我孫子市、柏市、流山市、松戸市、鎌ヶ谷市、印西市、白井市	<b>8市</b> 市川市、松戸市、流山市、野田市、柏市、船橋市、浦安市、鎌ヶ谷市	
都市計画決定 (下段は最終変更)	昭和43年12月28日 平成14年9月3日	昭和47年3月14日 平成21年2月24日	昭和48年3月6日 平成19年3月20日	
下水道法事業認可 (下段は最終変更)	昭和47年12月18日 平成30年1月31日	昭和47年3月25日 平成30年1月31日	昭和48年3月15日 平成30年1月31日	
都市計画法事業認可 (下段は最終変更)	昭和43年12月28日 平成25年7月16日	昭和47年3月25日 平成28年3月29日	昭和48年3月15日 平成28年9月13日	
全 体 計 画	計画処理面積	27,391 ha	12,102 ha	20,417 ha
	計画処理人口	1,406,200 人	657,700 人	1,421,100 人
	計画汚水量(日最大)	819,250 m <sup>3</sup> /日	330,660 m <sup>3</sup> /日	764,360 m <sup>3</sup> /日
	管 渠	φ700～3,300mm 217.6km	φ400～3,200mm 88.3km	φ400～4,750mm 115.5km
	ポンプ場	11ヶ所 <sup>※1</sup>	1ヶ所	3ヶ所 <sup>※1</sup>
	終末処理場 名称及び位置	花見川終末処理場 約21 ha(千葉市) 花見川第二終末処理場 約24 ha(千葉市・習志野市)	手賀沼終末処理場 約40 ha (我孫子市・印西市)	江戸川第一終末処理場 約30 ha(市川市) <b>建設中</b> 江戸川第二終末処理場 約26 ha(市川市)
	処理方法	凝集剤併用型循環式硝化脱窒法+急速ろ過法 <sup>※2</sup>	標準活性汚泥法+急速ろ過法	凝集剤併用型ステップ流入式多段硝化脱窒法+急速ろ過法 <sup>※3</sup> 凝集剤併用型循環式硝化脱窒法+急速ろ過法(江戸川第二 東系列)
排除方法	分流式	分流式	分流式(一部合流式)	
着手年度	昭和43年度	昭和46年度	昭和47年度	
計画目標年度	平成36年度	平成36年度	平成36年度	
供用開始年度	昭和49年4月	昭和56年4月	昭和56年4月	

※1 印旛沼・江戸川左岸連絡幹線のポンプ場2ヶ所は重複している。

※2 現在、花見川第二終末処理場第3系列を除き、標準活性汚泥法で処理している。

※3 現在、江戸川第二終末処理場第1～8系列は、標準活性汚泥法で処理している。

# 印旛沼流域下水道

## 事業のあらまし

本流域に含まれる印旛沼は内水面漁業や利根川の遊水池として、さらに周辺は県民の憩いの場など観光資源として利用されています。また、その水は農業用水、工業用水、上水道として使用され貴重な水源ともなっています。

一方、本地域の土地利用は首都周辺に位置し、かつ成田国際空港が立地していること等から住宅開発や工場進出が著しく、新たな交通網の整備に加えニュータウンの建設など都市化が進展しました。しかし、都市化に伴って沼に対する環境は悪化し、昭和40年代に入り、沼の水質汚濁が顕著になってきました。

そこで、昭和43年12月都市計画決定並びに事業認可を取得し、水質浄化の第一の施策として印旛沼流域下水道事業を実施することとなりました。

本流域下水道は、13市町にわたる都市からの汚水を広域的に集め、花見川及び花見川第二終末処理場に導き処理をした後、東京湾に放流する計画で整備を進め昭和49年4月から花見川終末処理場が、平成6年6月から花見川第二終末処理場が稼動しています。

なお、花見川第二終末処理場においては、東京湾の水質保全に対応するため第3系列目から高度処理対応として整備を行っています。

現在、千葉市をはじめ区域内13市町全てが供用開始しており、計画区域内人口に対する平成29年度末の下水道普及率は95%になっています。

## 管渠・ポンプ場

### 管 渠

印旛沼から東京湾に注ぐ花見川を境に東側に東部幹線及び東部第二幹線、西側に西部幹線及び西部第二幹線等を、また、災害時における流域下水道間の相互補完のための連絡幹線を整備し、総延長約217.6km、管径は700mmから3,300mmで各幹線の内訳は次のとおりです。

#### □管渠一覧

H30.3末現在

幹線名	管径(mm)	全体計画(km)	都市計画決定(km)	下水道事業認可(km)	都市計画事業認可(km)	完成(km)
東部幹線	800~3,200	42.7	42.7	42.7	42.7	42.7
西部幹線	800~3,300	31.6	31.6	31.6	31.6	31.6
鹿島幹線	1,000~1,500	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5
手繰幹線	700~900	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4
印西幹線	1,000~2,000	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3
桑納幹線	1,100~1,650	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5
東部第二幹線	700~2,200	29.3	29.3	29.3	29.3	29.3
八街幹線	700~1,500	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
磯辺幹線	900	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
西部第二幹線	1,000~1,800	19.5	19.5	19.5	19.5	9.6
東部第三幹線	800~1,350	31.4	31.4	—	—	—
富里幹線	800~1,200	2.9	—	2.9	—	2.9
印旛沼・江戸川左岸連絡幹線※	1,350~2,000	25.3	25.3	15.4	15.4	10.2
計		217.6	214.7	176.3	173.4	161.2

※印旛沼・江戸川左岸連絡幹線の管渠延長は、江戸川左岸流域下水道と重複している。(事業認可延長の内5.2kmは江戸川左岸流域で整備)

都市計画決定については、都市計画手続きの簡素化により計画決定していない延長がある。

## ポンプ場

印旛沼流域は八ツ手のような地形で形成され、延長が長く管渠の埋設位置が深くなるために東部幹線に5ヶ所、東部第二幹線に1ヶ所、東部第三幹線に1ヶ所、西部幹線に2ヶ所の計9ヶ所の中継ポンプ場を設け、下水を揚水し処理場まで流送します。

また、印旛沼・江戸川左岸連絡幹線にポンプ場を2ヶ所設け、流域下水道間を互いに流送できるようにします。各ポンプ場の概要は次のとおりです。

### □ポンプ場一覧

(うち予備) H30.3末現在

名称	全体計画			下水道事業認可			完 成					
	揚水量 (m <sup>3</sup> /min)	構造	能力 (m <sup>3</sup> /min)	揚水量 (m <sup>3</sup> /min)	構造	能力 (m <sup>3</sup> /min)	揚水量 (m <sup>3</sup> /min)	構造	能力 (m <sup>3</sup> /min)			
成 田	58.4	立軸斜流 渦巻ポンプ	φ350mm×2台	15.2	56.4	立軸斜流 渦巻ポンプ	φ350mm×2台	15.2	41.2	立軸斜流 渦巻ポンプ	φ350mm×1台	15.2
			φ400mm×2台(1)	28.0			φ400mm×1台	26.0			φ400mm×1台	26.0
							φ400mm×1台(1)	28.0			φ400mm×1台(1)	28.0
酒々井	71.6	〃	φ400mm×2台	22.8	80.6	〃	φ400mm×2台	22.8	80.6	〃	φ400mm×2台	22.8
			φ400mm×2台(1)	26.0			φ400mm×2台(1)	26.0			φ400mm×2台(1)	26.0
							φ300mm×1台	9.0			φ300mm×1台	9.0
鹿 島	129.2	〃	φ600mm×3台(1)	51.6	154.8	〃	φ600mm×3台	51.6	154.8	〃	φ600mm×3台	51.6
			φ400mm×1台	26.0			φ700mm×1台(1)	64.0			φ700mm×1台(1)	64.0
手 繰	189.0	〃	φ600mm×2台	52.0	189.0	〃	φ600mm×2台	52.0	189.0	〃	φ600mm×2台	52.0
			φ700mm×2台(1)	85.0			φ700mm×2台(1)	85.0			φ700mm×2台(1)	85.0
柏 井	234.0	〃	φ450mm×1台	27.0	258.0	〃	φ400mm×1台	24.0	258.0	〃	φ400mm×1台	24.0
			φ700mm×4台(1)	69.0			φ450mm×1台	27.0			φ450mm×1台	27.0
							φ700mm×3台	69.0			φ700mm×3台	69.0
							φ800mm×1台(1)	96.0			φ800mm×1台(1)	96.0
平 戸	96.0	〃	φ600mm×3台(1)	48.0	96.0	〃	φ600mm×2台	48.0	96.0	〃	φ600mm×2台	48.0
							φ900mm×1台(1)	110.0			φ900mm×1台(1)	110.0
八千代	226.0	〃	φ500mm×2台	38.0	321.0	〃	φ500mm×2台	38.0	321.0	〃	φ500mm×2台	38.0
			φ800mm×3台(1)	75.0			φ800mm×1台	75.0			φ800mm×1台	75.0
							φ1100mm×2台(1)	170.0			φ1100mm×2台(1)	170.0
物 井	(鹿島系統)	〃	φ500mm×2台(1)	36.0	(鹿島系統)	〃	φ500mm×2台(1)	36.0	(鹿島系統)	〃	φ500mm×2台(1)	36.0
	36.0		36.0	36.0	36.0							
	(東部第二系統)		φ500mm×4台(1)	32.0	(東部第二系統)		φ500mm×4台(1)	32.0	(東部第二系統)		φ500mm×2台(1)	32.0
	96.0		32.0		96.0		32.0		32.0		32.0	
	(計)			(計)				(計)				
	132.0		132.0		68.0		68.0		68.0			
習志野※	(緊急時汚水)	〃	φ800mm×4台(1)	75.4	—	—	—	—	—	—	—	—
	226.2		—	—	—							
	(処理水)	立軸両吸込 渦巻ポンプ	φ400mm×2台	19.2	(処理水)	立軸両吸込 渦巻ポンプ	φ400mm×2台	19.2	(処理水)	立軸両吸込 渦巻ポンプ	φ400mm×1台	19.2
	38.4		19.2	38.4		19.2	19.2	19.2		19.2		
本北方※	(緊急時汚水)	立軸斜流 渦巻ポンプ	φ800mm×4台(1)	79.0	—	—	—	—	—	—	—	—
	237.0		—	—	—							
				(暫定接続汚水)	立軸斜流 渦巻ポンプ		φ250mm×2台(1)	7.0			(暫定接続汚水)	水中汚水 ポンプ
			7.0		7.0		7.0		3.5			
	(処理水)	横軸両吸込 渦巻ポンプ	φ250mm×3台(1)	19.5	—	—	—	—	—	—	—	—
	39.0		19.5	—	—	—	—	—	—	—	—	
生 谷	105.0	立軸斜流 渦巻ポンプ	φ250mm×2台	7.5	—	—	—	—	—	—	—	—
			φ450mm×3台	30.0								

※習志野ポンプ場及び本北方ポンプ場については、江戸川左岸流域下水道と重複している。

# 終末処理場

印旛沼流域下水道では、下水を処理するために東京湾埋立地の花見川河口左岸に花見川終末処理場を、同埋立地の千葉市美浜区豊砂地先及び習志野市地先の両方にまたがる場所に花見川第二終末処理場をそれぞれ整備し、下水はここで高級処理及び一部は高度処理をした後、花見川、浜田川及び菊田川に放流されます。その概要は次のとおりです。

## □印旛沼流域下水道 計画処理人口と計画汚水量

区 分	全 体 計 画	下 水 道 事 業 認 可
処理面積 (ha)	27,391	20,199
計画処理人口 (人)	1,406,200	1,296,310
計画汚水量 (m <sup>3</sup> /日) : 日平均	653,500	568,870

## □花見川終末処理場

(うち予備) H30.3 末現在

区 分	全 体 計 画	下 水 道 事 業 認 可	完 成
水 処 理 施 設	9系列	8系列	8系列 (日平均計画汚水量311.5千m <sup>3</sup> /日)
沈 砂 池	4.2m×18.0m×0.86m 6池	4.2m×18.0m×0.86m 6池	4.2m×18.0m×0.86m 6池
揚 水 ポ ン プ	φ600mm [48.0m <sup>3</sup> /min] 4台 φ1,000mm [154.0m <sup>3</sup> /min] 2台(1) φ200mm [7.5m <sup>3</sup> /min] 2台 φ450mm [30.0m <sup>3</sup> /min] 3台	φ600mm [48.0m <sup>3</sup> /min] 3台 φ1,000mm [154.0m <sup>3</sup> /min] 3台(1)	φ600mm [48.0m <sup>3</sup> /min] 3台 φ1,000mm [154.0m <sup>3</sup> /min] 3台(1)
場内中継ポンプ	花見川→花見川第二 φ450mm [27.0m <sup>3</sup> /min] 2台		
フリアレーションタンク	1~4系 4.0m×52.2m×4.5m 4槽	1~4系 4.0m×52.2m×4.5m 4槽	1~4系 4.0m×52.2m×4.5m 4槽
最 初 沈 殿 池	1~4系 20.0m×60.6m×2.7m×1水路 4池 5~8系 4.0m×37.5m×2.7m×4水路 8池 9系 6.0m×11.0m×3.0m×4水路 4池	1~4系 20.0m×60.6m×2.7m×1水路 4池 5~8系 4.0m×37.5m×2.7m×4水路 8池	1~4系 20.0m×60.6m×2.7m×1水路 4池 5~8系 4.0m×37.5m×2.7m×4水路 8池
反 応 槽	1~4系 16.9m×64.6m×6.0m×1水路 8槽 5~8系 8.3m×77.6m×6.2m×2水路 8槽 9系 13.9m×64.0m×12.0m×1水路 4槽	1~4系 16.9m×64.6m×6.0m×1水路 8槽 5~8系 8.3m×77.6m×6.2m×2水路 8槽	1~4系 16.9m×64.6m×6.0m×1水路 8槽 5~8系 8.3m×77.6m×6.2m×2水路 8槽
最 終 沈 殿 池	メイン部 4.0m×49.1m×2.7m×4水路 16池 クロス部 5.0m×16.9m×4.1m×3水路 16池 9系 6.0m×42.0m×3.5m×4水路 4池	メイン部 4.0m×49.1m×2.7m×4水路 16池 クロス部 5.0m×16.9m×4.1m×3水路 16池	メイン部 4.0m×49.1m×2.7m×4水路 16池 クロス部 5.0m×16.9m×4.1m×3水路 16池
高度処理揚水ポンプ	φ900mm [105.0m <sup>3</sup> /min] 4台(1)		
急 速 ろ 過 池	9.3m×5.0m 24池		
塩 素 混 和 池	5.0m×36.0m×4m 1池	4.0m×34.3m×2m 8池	4.0m×34.3m×2m 8池
送 風 機	φ450mm/400mm[235m <sup>3</sup> /min] 2台 φ600mm/550mm[470m <sup>3</sup> /min] 2台(1)	φ450mm/400mm[235m <sup>3</sup> /min] 2台 φ600mm/550mm[470m <sup>3</sup> /min] 4台(1)	φ450mm/400mm[235m <sup>3</sup> /min] 2台 φ600mm/550mm[470m <sup>3</sup> /min] 4台(1)
汚 泥 濃 縮 槽	重力濃縮 φ13.0m×4.0m 3槽 遠心濃縮 50m <sup>3</sup> /h 5台(1)	重力濃縮 φ13.0m×4.0m 3槽 ベルト濃縮 50m <sup>3</sup> /h 5台(1)	重力濃縮 φ13.0m×4.0m 3槽 遠心濃縮 30m <sup>3</sup> /h 2台 50m <sup>3</sup> /h 4台(1)
汚 泥 脱 水 機	ベルトプレス ろ布幅3m[130kg/m/h] 8台(2) ※チューブレス φ800[780kg/h] 4台(1)	ベルトプレス ろ布幅3m[130kg/m/h] 2台 ろ布幅3m[80kg/m/h] 6台 ※チューブレス φ800mm[780kg/h] 2台(1)	ベルトプレス ろ布幅3m[80kg/m/h] 8台(1) 加圧脱水 ろ布面積50m <sup>2</sup> [250kg/h] 6台(1)
汚 泥 焼 却 炉	100 t / 日 3基	100 t / 日 3基 65 t / 日 1基	100 t / 日 2基 65 t / 日 1基 30 t / 日 2基
放流施設(豊砂幹線)	φ1,350mm L=2,940m	φ1,350mm L=2,940m	φ1,350mm L=2,940m

(注)全体計画においては、将来の運転管理の方法等を考慮しているため、処理能力及び施設形状が下水道事業認可や完成と合わない場合がある。

□花見川第二終末処理場

(うち予備) H30.3 未現在

区分	全体計画	下水道事業認可	完成
水処理施設	7系列	4系列	3系列 (日平均計画汚水量220.5千m <sup>3</sup> /日)
沈砂池	3.6m×22.0m×2.1m×2水路 5池	3.6m×22.0m×2.1m×2水路 2池	3.6m×22.0m×2.1m×2水路 1.5池
揚水ポンプ	西部幹線系統 φ900mm[115m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,350mm[230m <sup>3</sup> /min] 3台(1)	西部幹線系統 φ900mm[115m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,350mm[230m <sup>3</sup> /min] 2台(1)	西部幹線系統 φ900mm[115m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,350mm[230m <sup>3</sup> /min] 2台(1)
	西部第二幹線系統 φ700mm[53m <sup>3</sup> /min] 4台(1)	西部第二幹線系統 φ450mm[27m <sup>3</sup> /min] 2台 φ700mm[53m <sup>3</sup> /min] 2台(1)	西部第二幹線系統 φ450mm[27m <sup>3</sup> /min] 2台
場内中継ポンプ	—	φ400mm [20.6m <sup>3</sup> /min] 2台 φ400mm [43.8m <sup>3</sup> /min] 2台	φ400mm [20.6m <sup>3</sup> /min] 2台 φ400mm [43.8m <sup>3</sup> /min] 2台
最初沈殿池	1～2系 5.0m×33.0m×3.0m×4水路 8池	1～2系 5.0m×33.0m×3.0m×4水路 8池	1～2系 5.0m×33.0m×3.0m×4水路 8池
	3～4系 5.0m×23.0m×3.0m×4水路 8池	3～4系 5.0m×23.0m×3.0m×4水路 8池	3系 5.0m×23.0m×3.0m×4水路 4池
	5～7系 4.5m×15.0m×3.0m×6水路 12池		
反応槽	1～2系 5.8m×148.0m×10.0m×1水路 8槽	1～2系 5.8m×148.0m×10.0m×1水路 8槽	1～2系 5.8m×148.0m×10.0m×1水路 8槽
	3～4系 11.9m×78.2m×12.0m×4水路 2槽	3～4系 11.9m×78.2m×12.0m×4水路 2槽	3系 11.9m×78.2m×12.0m×4水路 1槽
	5～7系 10.9m×78.2m×12.0m×6水路 3槽		
最終沈殿池	1～2系 5.0m×62.0m×3.0m×4水路 8池	1～2系 5.0m×62.0m×3.0m×4水路 8池	1～2系 5.0m×62.0m×3.0m×4水路 8池
	3～4系 5.0m×69.0m×3.5m×4水路 8池	3～4系 5.0m×69.0m×3.5m×4水路 8池	3系 5.0m×69.0m×3.5m×4水路 4池
	5～7系 4.5m×58.0m×3.5m×6水路 12池		
急速ろ過池	6.5m×12.3m 24池	3～4系の処理水を対象 6.5m×12.3m 8池 11.5m×4.7m 2池 11.5m×3.7m 4池	6.5m×12.3m 3池
	11.5m×4.7m 2池		
	11.5m×3.7m 4池		
塩素混和池	9.6m×19.0m×4.7m×2階 2池	9.6m×19.0m×4.7×2階 1池	9.6m×19.0m×4.7×2階 1池
送風機	φ500mm/450mm[300m <sup>3</sup> /min] 2台	φ500mm/450mm[300m <sup>3</sup> /min] 2台	φ500mm/450mm[300m <sup>3</sup> /min] 2台
	φ800mm/700mm[600m <sup>3</sup> /min] 3台(1)	φ800mm/700mm[600m <sup>3</sup> /min] 2台 φ800mm/700mm[640m <sup>3</sup> /min] 1台(1)	φ800mm/700mm[600m <sup>3</sup> /min] 1台 φ800mm/700mm[640m <sup>3</sup> /min] 1台(1)
汚泥濃縮槽	重力濃縮 φ15.0m×4.0m 4槽	重力濃縮 φ15.0m×4.0m 2槽	重力濃縮 φ15.0m×4.0m 2槽
	遠心濃縮 70m <sup>3</sup> /h 7台(2)	70m <sup>3</sup> /h 3台(1) 50m <sup>3</sup> /h 3台	70m <sup>3</sup> /h 1台(1) 50m <sup>3</sup> /h 3台
汚泥脱水機	遠心脱水 30m <sup>3</sup> /h 6台(2)	遠心脱水 30m <sup>3</sup> /h 2台(1)	遠心脱水 30m <sup>3</sup> /h 1台(1)
		ベルトプレス ろ布幅3m[130kg/m/h] 4台	ベルトプレス ろ布幅3m[130kg/m/h] 4台
汚泥焼却炉	150t/日 2基	150t/日 2基	150t/日 2基
	130t/日 2基		
放流ポンプ	φ1,000mm [154.0m <sup>3</sup> /min] 3台	φ1,000mm [154.0m <sup>3</sup> /min] 3台	φ1,000mm [154.0m <sup>3</sup> /min] 2台
	φ1,100mm [165.0m <sup>3</sup> /min] 2台(1)	φ1,100mm [165.0m <sup>3</sup> /min] 1台(1)	
	(処理水還元) φ400mm [19.2m <sup>3</sup> /min] 2台	(処理水還元) φ400mm [19.2m <sup>3</sup> /min] 2台	(処理水還元) φ400mm [19.2m <sup>3</sup> /min] 2台
放流施設	菊田川幹線 φ1,650～2,000mm L=1,600m	菊田川幹線 φ1,650～2,000mm L=1,600m	菊田川幹線 φ1,650～2,000mm L=1,600m
	浜田川幹線 φ2,000～3,000mm L=1,800m	浜田川幹線 φ2,000～3,000mm L=1,800m	

(注)全体計画においては、将来の運転管理の方法等を考慮しているため、処理能力及び施設形状が下水道事業認可や完成と合わない場合がある。

# 事業費の推移(印旛沼)

(単位：百万円)

年 度	事 業 費			年 度	事 業 費		
	補助事業費	単独事業費	計		補助事業費	単独事業費	計
S 43 年度	200		200	H 9 年度	10,681	1,274	11,955
S 44 年度	1,816	20	1,836	H 10 年度	12,473	922	13,395
S 45 年度	2,213	46	2,259	H 11 年度	12,052	594	12,646
S 46 年度	4,578	143	4,721	H 12 年度	10,253	527	10,780
S 47 年度	4,228	296	4,524	H 13 年度	8,478	515	8,993
S 48 年度	5,000	864	5,864	H 14 年度	7,114	527	7,641
S 49 年度	3,673	508	4,181	H 15 年度	6,074	405	6,479
S 50 年度	4,309	738	5,047	H 16 年度	4,532	500	5,032
S 51 年度	4,054	240	4,294	H 17 年度	3,334	357	3,691
S 52 年度	6,800	306	7,106	H 18 年度	1,261	458	1,719
S 53 年度	6,850	173	7,023	H 19 年度	996	436	1,432
S 54 年度	7,108	256	7,364	H 20 年度	584	411	995
S 55 年度	5,120	300	5,420	H 21 年度	1,040	204	1,244
S 56 年度	3,671	300	3,971	H 22 年度	749	182	931
S 57 年度	2,213	288	2,501	H 23 年度	657	184	841
S 58 年度	3,322	301	3,623	H 24 年度	610	196	806
S 59 年度	5,218	209	5,427	H 25 年度	478	179	657
S 60 年度	5,202	301	5,503	H 26 年度	575	264	839
S 61 年度	5,544	305	5,849	H 27 年度	475	262	737
S 62 年度	18,116	375	18,491	H 28 年度	718	148	866
S 63 年度	9,320	570	9,890	H 29 年度	1570	199	1,769
H 元 年度	9,176	744	9,920				
H 2 年度	9,552	1,118	10,670				
H 3 年度	16,950	1,368	18,318				
H 4 年度	21,116	1,973	23,089				
H 5 年度	20,710	1,618	22,328				
H 6 年度	11,894	1,616	13,510				
H 7 年度	9,677	1,397	11,074				
H 8 年度	10,148	1,387	11,535	合 計*	302,480	26,506	328,986

※端数処理の関係上、合計が一致しない場合があります。

# 手賀沼流域下水道

## 事業のあらまし

本流域に含まれる手賀沼は内水面漁業、農業用水としてまた観光面等で広く利用され貴重な水資源となっています。一方、本地域の土地利用は首都周辺に位置しているため急激な市街化が進行しました。この市街地から排出される生活排水のため、昭和40年代に入り、沼の水質の悪化が顕著になってきました。

このため、昭和47年3月都市計画決定並びに事業認可を取得し、水質浄化の第一の施策として手賀沼流域下水道事業を実施することとなりました。

本流域下水道は7市にわたる都市からの汚水を広域的に集め、手賀沼終末処理場に導き高度処理した後、利根川に放流する計画で整備を進め昭和56年4月から手賀沼終末処理場が稼動しています。

現在、柏市をはじめ区域内7市全てが供用開始しており、計画区域内人口に対する平成29年度末の下水道普及率は89%になっています。

## 管渠・ポンプ場

### 管 渠

手賀沼を囲む形で北部幹線、南部幹線等を整備し、総延長約88.3km、管径は400mmから3,200mmで各幹線の内訳は次のとおりです。

#### □管渠一覧

H30.3末現在

幹線名	管径(mm)	全体計画(km)	都市計画決定(km)	下水道事業認可(km)	都市計画事業認可(km)	完 成(km)
北部幹線	900～3,200	23.1	23.1	23.1	23.1	23.1
南部第一幹線	1,000～2,400	23.7	23.7	23.7	23.7	23.7
南部第二幹線	1,800	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
松戸幹線	700	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
名戸ヶ谷幹線	1350	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
金山第一幹線	400～1,350	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1
金山第二幹線	700	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
北部第二幹線	1,000～2,200	20.0	17.4	20.0	17.4	20.0
布佐幹線	1,500	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
西原幹線	500～700	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9
駒木幹線	400～800	2.1	0.6	2.1	0.6	2.1
鎌ヶ谷幹線	500～800	1.1	—	1.1	—	1.1
計		88.3	83.1	88.3	83.1	88.3

※都市計画決定については、都市計画手続きの簡素化により計画決定していない延長がある。

### ポンプ場

手賀沼流域は地形の起伏が比較的少なく、南部幹線の管理設位置の深い部分に1ヶ所の中継ポンプ場を設け、下水を揚水し処理場まで流送します。その概要は次のとおりです。

#### □ポンプ場

(うち予備) H30.3末現在

名称	全 体 計 画			下 水 道 事 業 認 可			完 成		
	揚水量 (m <sup>3</sup> /min)	構造	能力 (m <sup>3</sup> /min)	揚水量 (m <sup>3</sup> /min)	構造	能力 (m <sup>3</sup> /min)	揚水量 (m <sup>3</sup> /min)	構造	能力 (m <sup>3</sup> /min)
名戸ヶ谷	80.7	スクリーンポンプ φ1600mm×2台	40.35	80.7	スクリーンポンプ φ1600mm×2台	40.35	80.7	スクリーンポンプ φ1600mm×2台	40.35



# 終末処理場

手賀沼流域下水道では、下水を処理するために我孫子市と印西市の境界に手賀沼終末処理場を整備し、下水はここで高度処理をした後、利根川に放流されます。その概要は次のとおりです。

## □手賀沼流域下水道 計画処理人口と計画汚水量

区 分	全 体 計 画	下 水 道 事 業 認 可
処理面積 (ha)	12,102	8,810
計画処理人口 (人)	657,700	593,100
計画汚水量 (m <sup>3</sup> /日): 日平均	263,200	233,030

## □手賀沼終末処理場

(うち予備) H30.3末現在

区 分	全 体 計 画	下 水 道 事 業 認 可	完 成
水 処 理 施 設	7系列	6系列	5.5系列 (日平均計画汚水量214.5千m <sup>3</sup> /日)
沈 砂 池	第1 3.4m×18.0m×2.4m 2池 第2 3.4m×22.0m×2.4m 3池	第1 3.4m×18.0m×2.4m 2池 第2 3.4m×22.0m×2.4m 2池	第1 3.4m×18.0m×2.4m 2池 第2 3.4m×22.0m×2.4m 2池
揚 水 ポ ン プ	φ600mm [48m <sup>3</sup> /min] 4台(1) φ900mm [96m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,200mm [170m <sup>3</sup> /min] 1台(1)	φ600mm [48m <sup>3</sup> /min] 4台(1) φ900mm [96m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,200mm [170m <sup>3</sup> /min] 1台(1)	φ600mm [48m <sup>3</sup> /min] 4台(1) φ900mm [96m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,200mm [170m <sup>3</sup> /min] 1台(1)
フ リ エ ア レ ー シ ョ ン タ ン ク	1~6系 16.5m×10.0m×4.0m 12池	1~6系 16.5m×10.0m×4.0m 12池	1~5.5系 16.5m×10.0m×4.0m 11池
最 初 沈 殿 池	1~6系 16.5m×49.5m×3.5m 12池 7系 8.0m×30.0m×3.5m 4池	1~6系 16.5m×49.5m×3.5m 12池	1~5.5系 16.5m×49.5m×3.5m 11池
反 応 槽	1~7系 8.0m×100.0m×5.0m 28池	1~6系 8.0m×100.0m×5.0m 24池	1~5.5系 8.0m×100.0m×5.0m 22池
最 終 沈 殿 池	1~7系 16.5m×65.0m×4.0m 14池	1~6系 16.5m×65.0m×4.0m 12池	1~5.5系 16.5m×65.0m×4.0m 11池
三 次 処 理 揚 水 ポ ン プ	φ600mm [40m <sup>3</sup> /min] 2台(1) φ800mm [80m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,100mm [160m <sup>3</sup> /min] 2台(1)	φ600mm [40m <sup>3</sup> /min] 2台(1) φ800mm [80m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,100mm [160m <sup>3</sup> /min] 2台(1)	φ600mm [40m <sup>3</sup> /min] 2台(1) φ800mm [80m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,100mm [160m <sup>3</sup> /min] 2台(1)
急 速 ろ 過 池	8.8m×8.8m 22池	8.8m×8.8m 22池	8.8m×8.8m 22池
塩 素 混 和 池	12.6m×45.6m×1.5m 1池	12.6m×45.6m×1.5m 1池	12.6m×45.6m×1.5m 1池
送 風 機	φ350mm/300mm[160m <sup>3</sup> /min] 2台 φ600mm/500mm[420m <sup>3</sup> /min] 5台(1)	φ350mm/300mm[160m <sup>3</sup> /min] 2台 φ600mm/500mm[420m <sup>3</sup> /min] 4台(1)	φ350mm/300mm[160m <sup>3</sup> /min] 2台 φ600mm/500mm[420m <sup>3</sup> /min] 3台(1)
汚 泥 濃 縮 槽	重力濃縮 15.0m×15.0m×4.0m 3槽 遠心濃縮 80m <sup>3</sup> /h 4台(1)	重力濃縮 15.0m×15.0m×4.0m 3槽 遠心濃縮 80m <sup>3</sup> /h 4台(1)	重力濃縮 15.0m×15.0m×4.0m 2槽 遠心濃縮 80m <sup>3</sup> /h 4台(1)
汚 泥 消 化 槽	φ19.0m×15.0m 7槽	φ19.0m×15.0m 7槽	
ガ ス タ ン ク	φ17.5m×13.4m 3基	φ17.5m×13.4m 3基	
汚 泥 洗 浄 槽	—	13.0m×13.0m×4.0m 2槽	
汚 泥 脱 水 機	ベルトプレス ろ布幅3m[120kg/m/h] 4台 スクリーンプレス 500kg/h 2台(1)	ベルトプレス ろ布幅3m[120kg/m/h] 4台(1) スクリーンプレス 500kg/h 1台 フィルタープレス 100m <sup>2</sup> /台 2台(1)	ベルトプレス ろ布幅3m[120kg/m/h] 4台(1) スクリーンプレス 500kg/h 1台 フィルタープレス 100m <sup>2</sup> /台 2台(1)
汚 泥 焼 却 炉	80 t / 日 2基	80 t / 日 2基	80 t / 日 3基
固 形 燃 料 化 施 設	80 t / 日 1基	80 t / 日 1基	
汚 泥 焼 却 灰 焼 成 施 設	焼却灰 5 t / 日 1基	焼却灰 5 t / 日 1基	焼却灰 5 t / 日 1基
放 流 ポ ン プ	φ600mm [40m <sup>3</sup> /min] 2台(1) φ800mm [80m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,100mm [160m <sup>3</sup> /min] 2台(1)	φ600mm [40m <sup>3</sup> /min] 2台(1) φ800mm [80m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,100mm [160m <sup>3</sup> /min] 2台(1)	φ600mm [40m <sup>3</sup> /min] 2台(1) φ800mm [80m <sup>3</sup> /min] 2台 φ1,100mm [160m <sup>3</sup> /min] 2台(1)
放 流 渠	φ1,800mm L=5,040m 1連 L=4,890m 1連	φ1,800mm L=5,040m 1連 L=4,890m 1連	φ1,800mm L=5,040m 1連 L=4,890m 1連

(注)全体計画においては、将来の運転管理の方法等を考慮しているため、処理能力及び施設形状が下水道事業認可や完成と合わない場合がある。

# 事業費の推移(手賀沼)

(単位：百万円)

年 度	事 業 費			年 度	事 業 費		
	補助事業費	単独事業費	計		補助事業費	単独事業費	計
S 46年度	100		100	H 12年度	7,094	357	7,451
S 47年度	1,680	7	1,687	H 13年度	5,343	365	5,708
S 48年度	1,599	131	1,730	H 14年度	5,503	351	5,854
S 49年度	962	463	1,425	H 15年度	5,412	369	5,781
S 50年度	997	265	1,262	H 16年度	3,818	284	4,102
S 51年度	1,350	132	1,482	H 17年度	2,227	452	2,679
S 52年度	3,170	167	3,337	H 18年度	1,457	224	1,681
S 53年度	5,282	278	5,560	H 19年度	968	251	1,219
S 54年度	7,365	469	7,834	H 20年度	970	189	1,159
S 55年度	9,480	640	10,120	H 21年度	1,055	185	1,240
S 56年度	7,878	476	8,354	H 22年度	1,024	206	1,230
S 57年度	5,843	372	6,215	H 23年度	1,637	166	1,803
S 58年度	5,477	315	5,792	H 24年度	1,322	165	1,487
S 59年度	2,486	282	2,768	H 25年度	1,070	168	1,238
S 60年度	2,876	363	3,239	H 26年度	509	189	698
S 61年度	3,476	338	3,814	H 27年度	424	206	630
S 62年度	4,583	367	4,950	H 28年度	663	139	802
S 63年度	5,880	360	6,240	H 29年度	787	173	960
H 元年度	6,144	365	6,509				
H 2年度	4,844	350	5,194				
H 3年度	3,651	439	4,090				
H 4年度	7,870	345	8,215				
H 5年度	6,903	367	7,270				
H 6年度	6,012	401	6,413				
H 7年度	9,264	431	9,695				
H 8年度	6,428	698	7,126				
H 9年度	7,248	711	7,959				
H 10年度	9,382	515	9,897				
H 11年度	6,531	458	6,989	合 計※	186,044	14,944	200,988

※端数処理の関係上、合計が一致しない場合があります。

# 江戸川左岸流域下水道

## 事業のあらまし

江戸川は野田市関宿地点で利根川から分流したのち、いくつかの中小河川の流入を受けつつ流下し東京湾へ流入しています。この流域は首都に隣接し、県内で最も宅地開発が著しい地域で都市化が急激に進み人口が増加しています。

この市街地から排出される生活排水等のため、江戸川の水質汚濁が進行し昭和40年代に入り水質悪化が顕著となり、貴重な水資源が失われようとなりました。

このため、昭和48年3月都市計画決定並びに事業認可を取得し、水質浄化の第一の施策として江戸川左岸流域下水道事業を実施することとなりました。

本流域下水道は8市にわたる都市からの汚水を広域的に集め、江戸川第一及び江戸川第二終末処理場に導き高級処理をした後、東京湾に放流する計画で整備を進め、昭和56年4月から江戸川第二終末処理場が稼動しています。

なお、現在は東京湾の水質保全にも対応するため江戸川第一終末処理場を高度処理対応として整備しています。

現在、松戸市をはじめ区域内8市全てが供用開始しており、計画区域内人口に対する平成29年度末の下水道普及率は79%になっています。

## 管渠・ポンプ場

### 管 渠

江戸川に沿って江戸川幹線を、又、災害時における流域下水道間の相互補完のため、連絡幹線を整備し、総延長約115.5km、管径は400mmから4,750mmで各幹線の内訳は次のとおりです。

#### □管渠一覧

H30.3末現在

幹線名	管径(mm)	全体計画(km)	都市計画決定(km)	下水道事業認可(km)	都市計画事業認可(km)	完 成(km)
江戸川幹線	800~4,750	45.8	45.8	45.8	45.8	45.2
行徳幹線	2,400	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
浦安幹線	1,500~2,000	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8
市川幹線	1,100~1,800	10.8	10.8	10.8	10.8	10.8
松戸幹線	1,650~2,000	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5
流山第一幹線	1,500~1,650	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
流山第二幹線	600~1,200	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9
野田幹線	400~1,350	5.6	3.9	5.6	3.9	5.6
矢切幹線	1,350	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
市野谷幹線	500~800	2.3	—	2.3	—	2.3
印旛沼・江戸川左岸連絡幹線※	1,350~2,000	25.3	25.3	15.4	15.4	5.2
計		115.5	111.5	105.6	101.6	94.8

※印旛沼・江戸川左岸連絡幹線の管渠延長は、印旛沼流域下水道と重複している。(事業認可延長の内10.2kmは印旛沼流域で整備)

都市計画決定については、都市計画手続きの簡素化により計画決定していない延長がある。

## ポンプ場

江戸川流域は江戸川に沿って平坦であり、江戸川幹線の管理設位置の深い部分に1ヶ所の中継ポンプ場を設け、下水を処理場まで流送します。

また、印旛沼・江戸川左岸連絡幹線にポンプ場を2ヶ所設け、流域下水道間を互いに流送できるようにします。各ポンプ場の概要は次のとおりです。

### □ポンプ場一覧

(うち予備) 完成H30.3末現在

名 称	全 体 計 画			下 水 道 事 業 認 可			完 成		
	揚水量 (m <sup>3</sup> /min)	構 造	能力 (m <sup>3</sup> /min)	揚水量 (m <sup>3</sup> /min)	構 造	能力 (m <sup>3</sup> /min)	揚水量 (m <sup>3</sup> /min)	構 造	能力 (m <sup>3</sup> /min)
市 川	298.0	立軸斜流 ポンプ φ1200mm×2台(1) φ700mm×2台 φ300mm×1台	173.4 60.0 4.6	293.4	立軸斜流 ポンプ φ1200mm×2台(1) φ700mm×2台	173.4 60.0	326.4	立軸斜流 ポンプ φ1200mm×2台(1) φ700mm×2台	173.4 60.0
習志野※	(緊急時汚水) 226.2	立軸斜流 渦巻ポンプ φ800mm×4台(1)	75.4	—	—	—	—	—	—
	(処理水) 38.4	立軸両吸込 渦巻ポンプ φ400mm×2台	19.2	(処理水) 38.4	立軸両吸込 渦巻ポンプ φ400mm×2台	19.2	(処理水) 19.2	立軸両吸込 渦巻ポンプ φ400mm×1台	19.2
本北方※	(緊急時汚水) 237.0	立軸斜流 渦巻ポンプ φ800mm×4台(1)	79.0	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	(暫定接続汚水) 7.0	立軸斜流 渦巻ポンプ φ250mm×2台(1)	7.0	(暫定接続汚水) 7.0	水中汚水 ポンプ φ200mm×2台	3.5
	(処理水) 39.0	横軸両吸込 渦巻ポンプ φ250mm×3台(1)	19.5	—	—	—	—	—	—

※習志野ポンプ場及び本北方ポンプ場については、印旛沼流域下水道と重複している。

# 終末処理場

江戸川左岸流域下水道では、下水を処理するため市川市福栄四丁目に江戸川第二終末処理場を整備し、下水はここで高級処理及び一部は高度処理をした後、旧江戸川に放流されます。また、市川市本行徳地先他に江戸川第一終末処理場を建設しています。その概要は次のとおりです。

## □江戸川左岸流域下水道 計画処理人口と計画汚水量

区 分	全 体 計 画	下 水 道 事 業 認 可
処理面積 (ha)	20,417	12,573
計画処理人口 (人)	1,421,100	1,085,470
計画汚水量 (m <sup>3</sup> /日) : 日平均	564,860	406,910

## □江戸川第一終末処理場

(うち予備) H30.3 末現在

区 分	全 体 計 画	下 水 道 事 業 認 可	完 成
水 処 理 施 設	9系列	2系列	
沈 砂 池	3.0m×9.8m×0.7m 8池	3.0m×9.8m×0.7m 4池	
揚 水 ポ ン プ	φ600mm [37.0m <sup>3</sup> /min] 2台 φ800mm [74.0m <sup>3</sup> /min] 4台(1)	φ600mm [37.0m <sup>3</sup> /min] 2台 φ800mm [74.0m <sup>3</sup> /min] 1台(1)	
最 初 沈 殿 池	1~4,9系 5.5m×16.5m×3.0m 38池 5~8系 5.5m×18.0m×3.0m 32池	1~2系 5.5m×16.5m×3.0m 16池	
エ ア レ シ ョ ン タ ン ク	1~4,9系 11.3m×64.1m×6.0m 19池 5~8系 11.3m×88.0m×6.0m 16池	1~2系 11.3m×64.1m×6.0m 8池	
最 終 沈 殿 池	1~4,9系 5.5m×35.4m×3.5m 38池 5~8系 5.5m×45.0m×3.5m 32池	1~2系 5.5m×35.4m×3.5m 16池	
急 速 ろ 過 槽	3.5m×5.0m 8池 5.5m×5.0m 8池	3.5m×5.0m 4池	
送 風 機	140m <sup>3</sup> /min 6台(2) 180m <sup>3</sup> /min 6台(2) 110m <sup>3</sup> /min 2台(1)	120m <sup>3</sup> /min 3台(1)	
汚 泥 濃 縮 槽	重力濃縮 φ11.0×4.0m 4槽 φ14.0×4.0m 4槽 機械濃縮 100m <sup>3</sup> /h 4台(1) 120m <sup>3</sup> /h 5台(1)	重力濃縮 φ11.0×4.0m 1槽 機械濃縮 50m <sup>3</sup> /h 2台(1)	
汚 泥 消 化 槽	10,000m <sup>3</sup> 10槽		
ガ ス タ ン ク	3,200m <sup>3</sup> /槽 4槽 3,300m <sup>3</sup> /槽 6槽		
汚 泥 脱 水 機	560kg-DS/h 4台(1) 620kg-DS/h 5台(1)	510kg-DS/h 2台(1)	
汚 泥 焼 却 炉	120 t /日 5基	110 t /日 1基	
溶 融 炉	16 t /日 2基		
放 流 ポ ン プ	φ600mm [37.0m <sup>3</sup> /min] 2台 φ800mm [74.0m <sup>3</sup> /min] 4台(1)	φ600mm [37.0m <sup>3</sup> /min] 2台 φ800mm [74.0m <sup>3</sup> /min] 1台(1)	
放 流 施 設	φ1,800mm L=2,590m	φ1,800mm L=2,590m	

(注)全体計画においては、将来の運転管理の方法等を考慮しているため、処理能力及び施設形状が下水道事業認可や完成と合わない場合がある。

□江戸川第二終末処理場

(うち予備) H30.3末現在

区 分	全 体 計 画	下 水 道 事 業 認 可	完 成
水 処 理 施 設	8系列+東系列	8系列+東系列	8系列+東系列(1/2) (日平均計画処水量364.0千m <sup>3</sup> /日)
沈 砂 池	3.8m×17.5m×1.2m 4池	3.8m×17.5m×1.2m 4池	3.8m×17.5m×1.2m 4池
揚 水 ポ ン プ	低段 φ1,000mm[136m <sup>3</sup> /min] 2台(1) φ900mm[115m <sup>3</sup> /min] 2台 高段 φ700mm[68m <sup>3</sup> /min] 3台(1)	低段 φ1,000mm[136m <sup>3</sup> /min] 2台(1) φ900mm[115m <sup>3</sup> /min] 2台 高段 φ700mm[68m <sup>3</sup> /min] 3台(1)	低段 φ1,000mm[136m <sup>3</sup> /min] 2台(1) φ700mm[68m <sup>3</sup> /min] 2台 高段 φ700mm[68m <sup>3</sup> /min] 3台(1)
最 初 沈 殿 池	1~7系 9.3m×48.0m×2.7m 28池 8系 10.7m×48.0m×4.0m 2池 東系列 6.5m×21.0m×3.0m 16池	1~7系 9.3m×48.0m×2.7m 28池 8系 10.7m×48.0m×4.0m 2池 東系列 6.5m×21.0m×3.0m 16池	1~7系 9.3m×48.0m×2.7m 28池 8系 10.7m×48.0m×4.0m 2池 東系列 6.5m×21.0m×3.0m 8池
反 応 槽	1~7系 9.3m×77.05m×6.0m 28池 8系 11.0m×76.1m×10.0m 2池 東系列 9.6m×133.0m×12.0m 4池	1~7系 9.3m×77.05m×6.0m 28池 8系 11.0m×76.1m×10.0m 2池 東系列 9.6m×133.0m×12.0m 4池	1~7系 9.3m×77.05m×6.0m 28池 8系 11.0m×76.1m×10.0m 2池 東系列 9.6m×133.0m×12.0m 2池
最 終 沈 殿 池	1~7系 18.6m×65.3m×3.0m 14池 8系 (上段) 10.7m×65.2m×3.1m 2池 (下段) 10.7m×60.2m×3.1m 東系列 (上段) 6.5m×34.5m×3.5m 16池 (下段) 6.5m×30.0m×3.5m	1~7系 18.6m×65.3m×3.0m 14池 8系 (上段) 10.7m×65.2m×3.1m 2池 (下段) 10.7m×60.2m×3.1m 東系列 (上段) 6.5m×34.5m×3.5m 16池 (下段) 6.5m×30.0m×3.5m	1~7系 18.6m×65.3m×3.0m 14池 8系 (上段) 10.7m×65.2m×3.1m 2池 (下段) 10.7m×60.2m×3.1m 東系列 (上段) 6.5m×34.5m×3.5m 8池 (下段) 6.5m×30.0m×3.5m
送 風 機	φ300mm/250mm[110m <sup>3</sup> /min] 2台 φ450mm/400mm[220m <sup>3</sup> /min] 6台 φ600mm/500mm[440m <sup>3</sup> /min] 1台 φ450mm/400mm[260m <sup>3</sup> /min] 3台	φ300mm/250mm[110m <sup>3</sup> /min] 2台 φ450mm/400mm[220m <sup>3</sup> /min] 6台 φ600mm/500mm[440m <sup>3</sup> /min] 1台 φ450mm/400mm[260m <sup>3</sup> /min] 3台	φ300mm/250mm[110m <sup>3</sup> /min] 2台 φ450mm/400mm[220m <sup>3</sup> /min] 6台 φ600mm/500mm[440m <sup>3</sup> /min] 1台 φ500mm/450mm[202m <sup>3</sup> /min] 2台
急 速 ろ 過 池	1~8系 8.0m×6.7m 24池 東系列 6.6m×7.8m 8池	1~8系 8.0m×6.7m 12池 東系列 6.6m×7.8m 8池	東系列 6.6m×7.8m 4池
汚 泥 濃 縮 槽	第一終末処理場にて集約処理	重力濃縮 φ14.0m×4.0m 3槽 遠心濃縮 75m <sup>3</sup> /h 6台(1) ベルト濃縮 40m <sup>3</sup> /h 4台(1)	重力濃縮 φ14.0m×4.0m 3槽 遠心濃縮 75m <sup>3</sup> /h 6台(1) ベルト濃縮 40m <sup>3</sup> /h 1台
汚 泥 脱 水 機	第一終末処理場にて集約処理	加圧ろ過型 100m <sup>2</sup> /台 14台 120m <sup>2</sup> /台 4台	フィルタープレス 100m <sup>2</sup> /台 14台 120m <sup>2</sup> /台 1台
汚 泥 焼 却 炉	第一終末処理場にて集約処理		
送 泥 施 設	初沈汚泥用 160m <sup>3</sup> 4槽 余剰汚泥用 415m <sup>3</sup> 4槽		
送 泥 ポ ン プ	初沈汚泥 φ100mm[1.3m <sup>3</sup> /min] 3台(1) 余剰汚泥 φ200mm[3.4m <sup>3</sup> /min] 3台(1)		
送 泥 管	初沈汚泥 φ150mm L=3480m ×2 余剰汚泥 φ250mm L=3480m ×2		
放 流 ポ ン プ	φ900mm [100m <sup>3</sup> /min] 3台(1) φ800mm [86.4m <sup>3</sup> /min] 3台 φ700mm [60m <sup>3</sup> /min] 3台(1)	φ900mm [100m <sup>3</sup> /min] 3台(1) φ800mm [86.4m <sup>3</sup> /min] 3台 φ700mm [60m <sup>3</sup> /min] 3台(1)	φ900mm [100m <sup>3</sup> /min] 3台 φ800mm [86.4m <sup>3</sup> /min] 3台 φ700mm [56m <sup>3</sup> /min] 2台
放 流 施 設	第二放流幹線 φ2,000mm L=4,130m 今井放流幹線 φ1,500mm L=2,430m	第二放流幹線 φ2,000mm L=4,130m 今井放流幹線 φ1,500mm L=2,430m	第二放流幹線 φ2,000mm L=4,130m 今井放流幹線 φ1,500mm L=2,430m

(注) 全体計画においては、将来の運転管理の方法等を考慮しているため、処理能力及び施設形状が下水道事業認可や完成と合わない場合がある。

# 事業費の推移(江戸川左岸)

(単位：百万円)

年 度	事 業 費			年 度	事 業 費		
	補助事業費	単独事業費	計		補助事業費	単独事業費	計
S 47年度	100		100	H 13年度	5,790	352	6,142
S 48年度	370	37	407	H 14年度	4,694	430	5,124
S 49年度	900	62	962	H 15年度	3,267	480	3,747
S 50年度	3,394	26	3,420	H 16年度	3,650	425	4,075
S 51年度	2,921	96	3,017	H 17年度	2,386	479	2,865
S 52年度	7,810	62	7,872	H 18年度	6,017	408	6,425
S 53年度	8,029	123	8,152	H 19年度	7,147	463	7,610
S 54年度	9,234	160	9,394	H 20年度	6,107	451	6,558
S 55年度	11,086	673	11,759	H 21年度	3,798	361	4,159
S 56年度	11,198	637	11,835	H 22年度	3,225	358	3,583
S 57年度	11,060	584	11,644	H 23年度	2,620	381	3,001
S 58年度	9,198	587	9,785	H 24年度	2,168	557	2,725
S 59年度	8,582	612	9,194	H 25年度	5,230	763	5,993
S 60年度	6,788	528	7,316	H 26年度	5,593	717	6,310
S 61年度	8,574	452	9,026	H 27年度	7,625	644	8,269
S 62年度	7,550	496	8,046	H 28年度	7,155	727	7,882
S 63年度	7,260	777	8,037	H 29年度	6,344	631	6,975
H 元年度	7,824	613	8,437				
H 2年度	10,336	744	11,080				
H 3年度	9,586	908	10,494				
H 4年度	6,886	898	7,784				
H 5年度	11,531	1,013	12,544				
H 6年度	8,580	844	9,424				
H 7年度	9,957	901	10,858				
H 8年度	9,871	1,583	11,454				
H 9年度	8,580	1,606	10,186				
H 10年度	8,817	1,109	9,926				
H 11年度	7,580	571	8,151				
H 12年度	6,464	436	6,900	合 計※	302,884	25,768	328,652

※端数処理の関係上、合計が一致しない場合があります。